

# プランクトンを採取 調査船でBS3期生実習

下田臨海実験  
センターで

## 本県から西伊豆の須田さん(仁科小4年)



調査船つくばに乗り込みプランクトン採取を行う  
BSリーグ第3期生18人=下田市鍋田浜で

「めざそう未来の生物学者!」をスローガンに筑波大学と同生物学科が未来の科学者養成講座

として開催しているBS(バイオロジカル・サイエンス)リーグの第3期生18人が1日から3日まで、同大学の下田臨海実験センターで1回の実習をスタートさせた。

BSリーグというのは生物や生物学が好きという小学生や中学生に、興味を深め未来の生物学者に育てほしいという願いをこめて発足した事業。素質のある児童や生徒たちにきめ細かな研究指導、支援、学習指導を提供していく特待生システムにもなっている。

大学生が各1人ずつ個人指導者としてつき、研究をサポートする手厚い体制がとられるほか、筑波キャンパスや下田臨海実験センター、菅平高原実験センターでの実習に参加でき、最先端研究に触れられる。ただ、同リーグはBS3から同1まで

の昇格制で、毎年選ばきれながら最終ステージのBS1まで昇格した生徒だけが「生き残り」、高校卒業までの支援が約束される。

今年も茨城や山口、富山、長野の各県や大阪府などから未来の「生物学者たち」が集まってきたが、静岡県は西伊豆町の仁科小4年生、須田青葉さんただ1人。須田さんは、下田市から昨年参加し、現在第2ステージへ進出している下田中1年

生、安藤百々佳さんに勧められての参加だとい、小学4年生は3人だけ。センターに泊まり込んでの実習では青木優和教員の説明を受けた後、さっそく30人乗りの調査船つくば号に乗り込み、お兄さんやお姉さんたちと一緒に須田さんも、プランクトン採集を行った。

フィールド実習は2日目も磯採集や観測などが生まれ、最後に観察発表を行って閉講する。